

## 山 行 報 告 書

山行報告者：佐藤ゆ

山 域・山 名：羅 臼 岳 (1,661m)		(北海道斜里郡斜里町)	
入山日又は期間：平成30年7月29日(日)		・日帰り	
プラン担当者 正：佐藤ゆ 副：			
参 加 者	L・記・報：佐藤ゆ		
	他1名 男1名、女1名、計2名		
天候 晴れ			
月 日( )	集合時間・集合場所：なし		
7月29日(日)	4:40 出発、レンタカーにて木下小屋へ、5:40 山行開始 7:11 弥三吉水 7:22-8:43 大沢-9:17 羅臼平 9:32-10:06 羅臼岳山頂 10:55-11:35 羅臼平 12:07 大沢-12:27 銀冷水 12:41-13:29 弥三吉水 13:39-14:40 木下小屋へ下山 着後、斜里町の宿へ移動		
装 備 と 食 糧	共同装備：ツエルト（佐藤ゆ）、 共同食：なし 車提供者：なし		
	個人装備：ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、非常食、ストック、グローブ、飲料水、帽子、サングラス、日焼け止め、熊鈴、携帯トイレ、熊撃退スプレー 個人食：昼食		
感 想 & 要 注 意 事 項	<p>5:40 頃 木下小屋からスタート 鬱蒼とした樹林帯の中を登っていく。 登り始めて 50 分ほど（山と高原地図上「オホーツク展望」と書いてあるところより少し下）のところで、20～30m 前方の登山道の下部の樹林帯にヒグマ発見。 クマの方が聴覚や臭覚が優れているから、こちらに気づいて離れてくれるだろうと思い、その場で待機。 （念のため、レンタルして来た熊撃退スプレーの安全ガードを抜き、手に持つ。） しかし熊はこちらには全く構わずに、葉っぱをむしり食べながら少しずつ斜め下方に移動。若干嫌な方向だとは思いつつもこちらには来ないだろうと思い込み、そのまま観察しながら静かに待つ。 その頭の大きさにビビる。胴体は頭に対して短い印象。大人1頭。 だんだんと下方のこちらの登山道の下辺りに移動してきていると思ったら、だいぶこちらの近くに近づいて来て、人間を怖がる感じもなく、どんどんこちらに接近。こちらのこともしっかり見られた。（次ページへ）</p>		

感想&注意事項

スプレーを噴射して良い範疇（5～7m）まで来てしまったが、怒っている感じでもないのにスプレー噴射により怒らせてしまうのではないかと怖く、まだスプレー噴射できず。恐怖で手足の力が抜けてしまうのを感じた。

4～5m ほどまで近くまで来てしまい、さすがに近すぎてヤバいので後退しようとしたが、もうすれ違って上に行ったほうが良いくらいまで来たので、上に進んで離れた。落ち着いて、走らないように。

私たち（2人）の後ろに歩いていて、ともにその状況を切り抜けた単独の登山者は、このタイミングで私たちを抜かし先へ。私たちも後ろに気をつけながら、走らず、でも速やかに上へと進む。

登山道に熊のものと思われる糞がたくさんあった。

前日の知床五湖ガイドツアーで教わった、熊を遠ざける手拍子+掛け声を時々出しながら。しばらく進むと、弥三吉水の水場。休憩しやすいちょうど良い平らな広場があり、そこで休憩。先行者が落としたらしきプチトマトが落ちていた。こういうのも今後熊を引き寄せてしまうと思い、回収。この日もかなり暑く、手ぬぐいを濡らして身体を冷やす。

極楽平を超え、銀冷水という水場へ。携帯トイレブースあり。そこでも少し休憩し、上へ進む。

大沢の雪渓のところへ出ると展望が開け、高山植物なども咲いている。

大沢の雪渓は、下から見たらけっこう雪が残っているように見えたが、アイゼンなどは必要ない程度。

大沢を超えると、エゾキンバイやエゾコザクラ、エゾツガザクラ、チングルマなどが咲いていた。

羅臼平の辺りに出るとまた雰囲気が変わり、樹木は低く、左にサシルイ岳、右に羅臼岳頂上が原始的な雰囲気ですべており、とても素晴らしい雰囲気。

そこからさらに登り、岩場を超え、頂上へ。

頂上からの展望は本当に最高に素晴らしい。

360 度の大展望で、オホーツク海はもちろん、昨日歩いた知床五湖や木道遊歩道もくっきり、明日登る斜里岳も見えます。

先に頂上にいた単独男性は、もうここに 1 時間もいる、と言ってましたが、その気持ちわかる^^ 私たちも結局 50 分程はいました。（そしてその人は私たちが降りる時もまだ居た笑）

帰りは元来た道に戻る。行きよりも長く感じる。

帰りも樹林帯に入ると熊がいるかもしれないので、手拍子+掛け声を時々出しながら。

行きに熊に遭った辺りを確認しながら茂みを見ながらおりて行くと、また熊の頭がこちらを見ているような気がしたが、あえて探すのも危ないとの意見…そのまま止まらずに声を出しながら下山。

大変スリリングで、頂上は天国のようなそんな印象深い山でした。